

総合型選抜・学校推薦型選抜入試対策講演会あいさつ
(六分六十秒のメッセージ)

R6.7.21(日)

皆さん、こんにちは。山梨予備校校長の斉木です。日頃より山梨予備校における学習指導に対し、深いご理解とご協力をいただき、感謝申し上げます。本日はたいへん暑い中、入試対策講演会にご参加いただき、ありがとうございます。また講演会開催にあたり、講師の先生方をはじめ関係各位にはたいへんお世話になります。厚く御礼申し上げます。ここであいさつに代えまして、大学入試の受験勉強ということについて「六分六十秒のメッセージ」を申し上げます。すでに四十秒経過しています。きっと、あっという間に終わります。

46年前、〇〇西高3年生の私は、何となくですが国立大学だけ受験しました。3月3日の第一志望〇〇大学受験がはじめての受験で、日程の異なるグループにも出願できたので3月後半、〇〇医科歯科大学医学部を受験しました。医者になりたかったのではなく、でも間違っただけ合格したら受けとめよう、そんな気持ちでした。見事どちらも不合格、予備校に通い、翌年第一志望校に合格しました。

合格できそうなところも含めて受験、という計画性もなく、将来何をしたいからこの大学・学部、という見通しもなく、出たところ勝負の受験でした。それでも真剣に考え、手探りで進み、その先に何があってもそれが自分の人生、という無意識の覚悟みたいなものがあっただけだと思います。空回りした覚悟ほど記憶に残ります。一年目の不合格発表の方が二年目の合格発表よりも鮮明な記憶になっています。〇〇医科歯科大学は最近、〇〇工業大学との合併がニュースで報道されていますが、自分の母校が話題になっているような錯覚を覚えています。

さて現在の話です。近年の少子化と入学定員増により、大学は全入時代を迎えたと言われます。しかしこれはあくまでも全体的な数字の上での話であって、あこがれの大学を目指す一人ひとりの受験生にとっては、相変わらずの狭き門です。全入時代などと誰が言い出したのか、予備校としては迷惑な話です。ここは聞き流して下さるようお願いいたします。

本日のテーマ、総合型選抜・学校推薦型選抜入試についてですが、この入試による大学入学者はここ数年、全体の過半数を占めるほどにまで増えていきます。志願理由書や自己推薦書の提出を求められ、小論文や面接があるなど、共通テストを受けて各大学の個別試験を受ける、従来の選抜と大きく異なります。

そのため、対策に時間をかけ、もし希望が叶わなかったら…という心配が先立ち、全力で向かっていく心の構えをとりにくい、そこが多く受験生を悩ませていると思います。大学入試に関する情報がたくさん手に入り、失敗してはいけないとする受験生の心理的負担は、以前に比べて高まっているようにも感じます。

「古の学者は己の為にし、今の学者は人の為にす」。『論語』の中で孔子が弟子に言った言葉です。今の学ぶ人は人のために学ぶ…、それはいいことだと思つと同時に、わざわざ言うことでもないだろう、とも思いました。しかし正しくは、今の学ぶ人は人に知られるために学ぶ、という意味だと知りました。なるほど…。では、昔の人が自分のために学んだ、というのはどういうことだろうと考えました。

人生の計画を検討し、高校生は大学を選ぶ際も将来の具体的な職業などから逆算して考えるよう促されます。明確な進路希望がある人はいいですが、そう促されて途惑う高校生は多いと思います。孔子は、自分のために学ぶ、と言っています。これは、まず明確な進路希望があつてそれに合わせて大学の学びがある、というよりも、興味があつて学んでみたい学部・学科に進み、そこで学びながら「さて私の未来は…」と考える、そういうイメージが合っていると私は思います。

同じく孔子の『中庸』では冒頭に、「天の命ずるをこれ性と謂い、性に率うをこれ道と謂う」とあります。人の性格とか能力は天から与えられたものである、という意味ですが、じゃあ今のありのままの自分でいいんだ、ということなのでしょう。それにこんなわかりやすいことを孔子はなぜ勿体ぶつて言ったのでしょうか。

ありのままの自分、ということの捉え方が大事です。これが自分と思っているその自分は、天から与えられた性格や能力を存分に発揮しているのかどうか、そこが問われています。私たちは様々な場面で評価されますが、それらは全てある一つの視点からの評価です。トータルに考えると、天から与えられたものに高い低いの差はない、そう孔子は言っていると思います。得意・不得意はあります。得意分野、自分の力を発揮できる分野を大学で見つけてほしいと思います。

自分でも気づかない、自分の知らない力があります。そのため多様な形の入試に挑戦することは有効です。総合型選抜・学校推薦型選抜に適性があるかどうかの判断は難しいですが、自分はこれで行く、と覚悟を決めたら、堂々と受験に向かってください。堂々と、です。先回りして心配しないように。どんな結果に直面しても立ち上がる自分を信じ、その時その時の自分と向き合うだけです。

受験生の毎日は、何度も何度も立ち上がる、その繰り返しです。立ち上がる視線の先に未来の皆さんがいます。未来の皆さんは、健気に前をみて歩き続けようとする過去の自分の姿に励まされるのです。皆さんの前途に幸多からんことをお祈り申し上げ、あつという間だったかどうかわかりませんが、これでちょうど「六分六十秒のメッセージ」を終わります。本日はよろしく願いいたします。